

川前自治会

区制の導入

世帯数の多さからくる事務局の負担や運営上の課題を解消するため、自治会内を1つの区が50～80世帯となるように18の区制を実施した。

自治会の全体行事として、夏祭りや敬老会、親睦旅行、春・秋期清掃活動等を実施しているが、各区においては、自治会が交付する補助金(10万円ほど)を利用して独自の親睦・交流事業を開催している。区によってはアンケートをとり、住民の希望する行事、例えば、バーベキューや花火、昔遊びの会、星を見る会等を工夫して行っている。区制を敷いたことで、正に住民の細かな要望に対応した運営ができるようになってきている。

区役員の任期は原則2年で、最初の年度に副区長を務め、次年度では区長として自治会行事の企画運営に当たっている。区役員は輪番制で選出されるため、若い役員も多く入り、活気のある自治会運営が行なわれている。

自治会執行部(四役)も区長経験者から選任されており、役員のみならず手不足の解消の一助になっている。

コロナ禍でもできること

様々な行事が中止を余儀なくされる中、いち早くマスクづくりを行った。材料は自治会が調達し裁縫などを得意とする有志で制作。保育園や学童クラブ、高齢者のお宅等5000枚以上を配布した。八幡平市の歯科医師会や地域の医療機関などにはフェイスシールドを作成して贈った。

自主防災会の新設

東日本大震災を機に防災意識が高まり、自主防災会を新たに組織した。「防災計画書」を作成して全戸配布するとともに年3回「防災会だより」を発行して住民への啓発活動を行っている。

事業の中で特に力を入れているのが、防災訓練

である。「避難所運営」や「消火器・AEDの使い方」、「防災用井戸での水の汲み上げ」、「防災無線操作」等の訓練を毎年計画的に実施している。始めた当初、住民の関心は薄かったが、訓練内容を「家庭で揃えられる道具を使った火おこし」等、身近な内容にしたことで関心が広まり、参加率も高まっていった。最近では盛岡農業高校生や岩手県立大学生も訓練に参加している。

現在は、地区内数か所の避難場所に設置した倉庫に防災用品を備蓄すべく、その整備にも取り組んでいる。



避難所運営訓練～炊き出し作業(平成30年9月)

今後の展望

今後も自主防災活動は継続して注力していきたい。また、川前自治会ではいきいきサロンにも力を入れており、今後さらに教室を増やす等、新規参加者が増えるように模索していきたい。

川前自治会は保育園、小学校、中学校、高校、大学がすべてある地域。この特性を生かして全世代が交流を持てる機会を増やすことで顔の見える地域にしていき、何かあったときに隣近所同士で助け合える関係づくりを目指している。



左から玉井典子氏(財務局長)、蛇走俊樹氏(事務局長)、川村尚雄氏(自治会長)、岡山侑氏(副会長)、奥津一俊氏(副会長)、取材時撮影